

魚鑑

巻の上

洋学文庫
文庫 8
B 106
1



天保辛卯新刊

標涯武井周作著

魚鑑

全二冊

東都一呑海樓藏板

武田藏書

魚いさなのいり美うつくしのり序しり
 武たけ井いのの大おほくいあまきしりりるり序しり
 けちあましりにに居ゐりて代しろりて駿うまをを
 紫むらととのの道みちふあつりれる
 毛けのの身み草くさ木きとらしり金かね石いしと
 鳥とり獸けものやや冬ふゆにに伊い勢せの
 海うみのの渚しづのの神かみ馬うま草くさをを

志信濃のなる岐き嶼す嶺りおれね奥
 乃平ひら葺ひけも。能よくそのまじ
 あし、をわき、まへ、忘れり。そが
 上えに又またはたの鱧ひるもの物せま狭も物
 乃市さ肴のり八善いふいふなる
 あ雙いび草た螺なる。復度や能せ能ま能
 其鰓ふ鰓た鰓なる。其善善善
 其善ふ善た善なる。其善善善

志志成成ままぬぬ志志りりんんととりり志志りり
 年年かかままいい日日本本橋橋なる長長濱濱
 丁丁とといいるる小小家家をを移移ししぬぬここハハ大大
 江都江都より魚魚ああままなる肆肆ののつつ
 いたいたああつついいるるおおなな父父りりの
 しいしいももななるる。百百ふふねねももああるる
 毛毛すすのの満満がが、もも苦苦濟濟すすののままはは

魚鱗を刺す子に
いとり^取志^調ありし。去る海を
曲^わ乃^な名^な所^となり。さきとあし
と^同いなり。そを又^{やま}和^{まろ}漢^この書
ふりうぐ之^あ合^いせり。以^氣味^味能^能毒^毒
をさしめり。和^な種^たのこ
まぐし。魚^あ鱗^いはるを捨^すやりし。

おのが次女も鞍^あしんまぐし。魚^あ鱗^い
はるをとりし。取^とりて多^おく妻^ま
秋^あを種^た輯^じへ冊^さ子^しと^いはなぬ。
そが上^あル^る漢^ま大^だ倭^わ女^にの画^え師^しよもの
し。生^いるるさるの乃^う寫^つし繪^えをさ
はる所^{ところ}名^なはる魚^うりるし。
あつ大^おくの意^い乃^の鑿^{たく}よ厚^あく

たほい
大ららるるな。や^雅びおるるひ
たひ^俗らるるな。昔^{あまね}く^{そら}諸^{ひと}人の^{つみ}此
巻^{まき}を^{ひら}繰^りえ^んよ^い十^{じゅう}寸^{すん}り^り清^{せい}
き^し肉^{にく}お^のの^ごと^んを^し洗^うる^る
海^{うみ}。おの^のと^この^み大人^{おとな}た^いと^ら
り^ん年^{ねん}て^らあ^らり^り因^ち縁^縁あ^け
れ^が。その^の定^{さだ}ふ^まは^まの^せて^いい^さり

あけ^るも^の成^なる^るふ^らん。
天^{あま}保^{たも}ふ^たら^しふ^の
孫^{まご}生^なま^りり

桂川 鎮 春

しる

天
地
人
三
才

卷二 終末

行
如
水
之
流

夫
德
之
流
如
水
之
流

德
之
流
如
水
之
流



德
之
流
如
水
之
流

夫
德
之
流
如
水
之
流

德
之
流
如
水
之
流

夫
德
之
流
如
水
之
流

德
之
流
如
水
之
流

夫
德
之
流
如
水
之
流

德
之
流
如
水
之
流

夫
德
之
流
如
水
之
流

水族可以資衛生者衆矣。號食海味者謀烹
 舉於一筵。犯禁忌於珍錯。亦已愚矣。是
 櫟涯先生所以有魚鑑一書也。入鱗。外之鄉
 者。使之而晰其物性。辨其主治。非恃技衰
 養生亦可以資多識也。嘗見書有石魚
 譜者。詳於圖。略於說。猶且傳誦。孰若
 先生浩博悉備。

綾瀨漁人梓識

鷄鳴叩魚糕。曉天早。發小田原町邊。魚鱗迎旭。市場盛。漏切風。俠客將。擅
 意氣揚。賣買始。賣言買語。喧嘩先。惡態暫止。雙方別。直段極。輕子呼傳
 鯛躍板舟爭。花色鏢亂。盤競落葉秋。交魚以鼻店前飛。水鳥閉目床下游
 遙見富峰。日本橋遠來海上。押送舟富。峯雪白。舩頭黑。山海珍味運馬牛
 聞說棒茶屋。錢百文有。恰聊無欠。鯁鯽釣切。紂王暴黑。鰻斷賣宰相劍
 莫道韓信能。潛股不知舟街川岸。叔雜沓。蹂躪往來中人。又港人又先進
 君不見日待。獻立草胡蘿。須臾改席料理。昔時鬻裕代。堅魚只今驕奢
 皆如此。肉處指身調紛。賜投捨大道。數千。群路次。板飛去飛來
 襲一腦

海若子題

櫟涯漁者書

岩花
古江

ま
類
たき

小田
原所

市
初

綱中
松魚
ひん

人
た

以
ま

真連乃々
酒高せ
席

意
末
人
終
か



一匹千浦の跡不懸尺子丈ありはたるの廣りの
竹葉草 長根

時をいふはきり浦ありは懸りも血とをうひさ初きや
塵外楼 清澄

江戸人の口ふあひるる日本橋柳やのね杉柳やの網
梅屋 鶴子

乳のいさる葉はせんて手りさる船の子おはして巻る
宝市亭 升成

典より初貢の雪の高は候は網引懸不田作の志
琴樹園 二喜

さらさら初宮の貢も車馬老海するありとをさあかん
檜園 梅明

二折はせおあさるあや様網屋をよむむおみあをあれ
堅川 伊志女

孫りて先つれ二葉の松の志さるり初老の皮造り
宝珠亭 舟唄

実人よいささるるいささるいさのあはははははは
旭堂 峯高

あまのつる懸の解はひささるりあはははははは
文貞舎 船積

雪のんと挽くやあははははははははははははははははは
万事亭 芳丸

隅田川雲のあははははははははははははははははは
水涯園 居澄

小孫のいささるる料也飯汁はあははははははははははは
鶴の屋 松友

獅杖はあはははははははははははははははははははははは
竹の屋 直成

のいささるる葉を網引さるるあははははははははははは
高根の 遠き

初わつとをさるるはははははははははははははははははは
魚地屋 厚丸

大勢の中へ一本初つるをさるるせははははははははははは
會源

お波の志はさるるさるる網引や雲の網はありや
濱の屋 あひさ

袴かきあはははははははははははははははははははははは
花魁楼 焉哉

唐より自由のたふる日本橋雲は解ありははははははは
花魁楼 焉哉

沙魚釣やははまおろし
 いきほひを信はるあせうき鯨突
 魚川
 中かぬ身もいとあはれと汁
 露有
 獲鯛や獲とるのや月乃新
 守徳
 本真や海より届く米新あ
 器丈
 寺る友新教を替はる新と汁
 花鳳
 本能の毛や号き初かつを
 群市
 中川の雲を芭沙あえくる堤うま
 青李
 撰る魚の子えや月乃天下一
 松露庵
 雪彩

地の中は大総と青きまの空のむさあの海やとひん 稻妻雷五郎
 日け電る鯉のありと老脱の考うもあを居ふりて 緋緘力弥
 態の備千石のおまをけつたの鯉の尺はありの能き 阿武松緑之助
 伝のおれん門のうたの太極これもうふのやとあえれ 玉垣額之助
 せねをえぬお子の漁人も苗あは鯛はまきそ免つらん 友綱良助
 標屋
 ち平を唱ふらんをよえん厚魚はちあきとをさるあふあは
 舟を若むりは鯉もあををぬををあけつらおれん 吸物
 わり子うわきつるあかみのかうわうつるをよめいん人の
 わりより魚よりせうと号や若むといひあかきうう路を同心を
 扱のうち小妻はまはうり鯉汁を煮あはれん 菊壽軒 七頁

江邨十里蘆華水何處漁
 向載雲歸 蔣塘埭草

溪水頗清穩香魚趁暖浮挾春誰占味
 花落在漁舟 十五歲女清水道草

新採海魚控玉兒
 性情自絕準

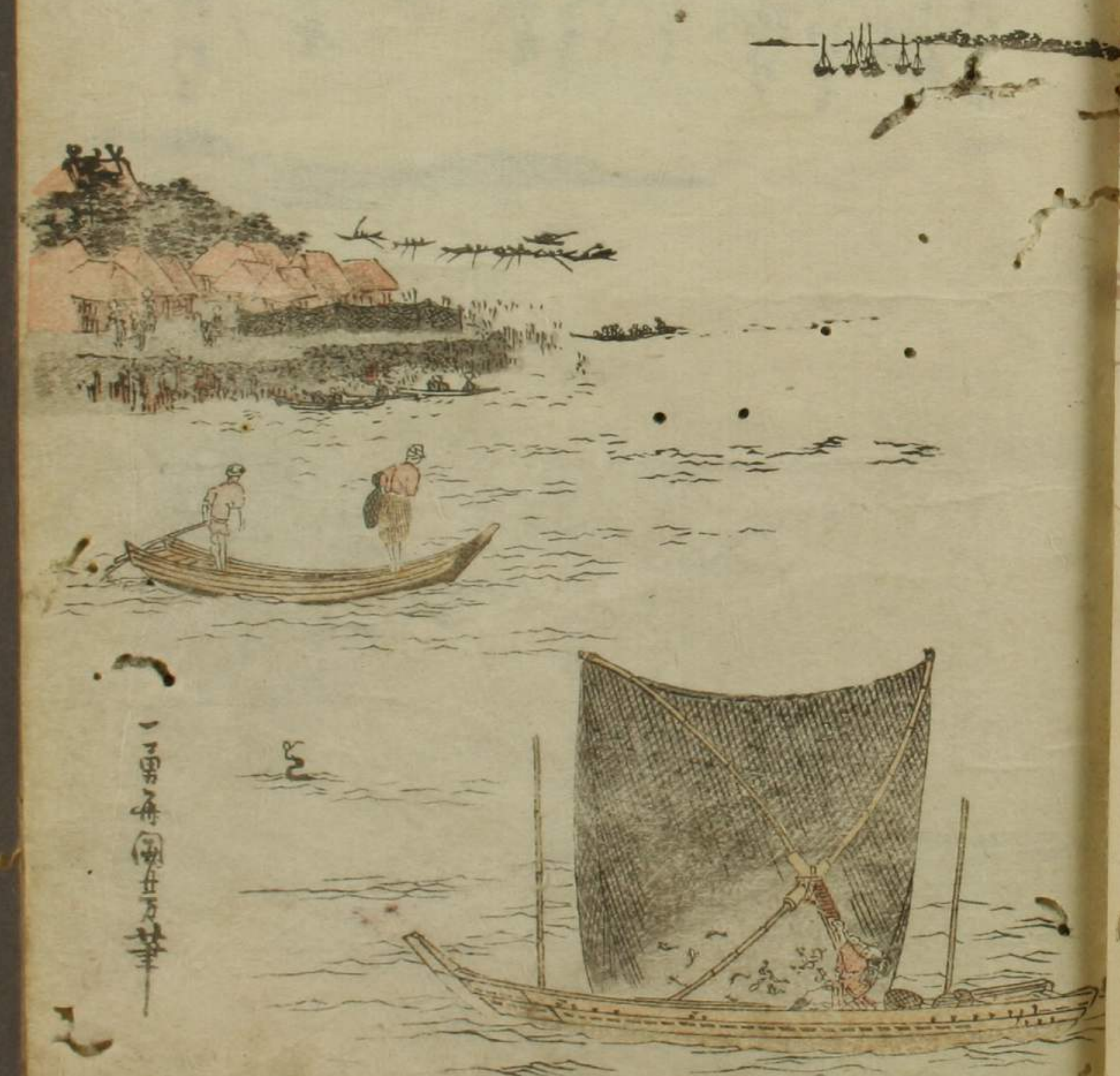
滄溟異物多今古人世盡但有家猶在
 性情自絕準

男式并周齊題畫

茅舍沿崖曲
 一通通山一抹
 夕陽紅暈以微
 網玻璃面漁蓑
 畫圖空碧中

文堆

かき
 十人
 舟人



一四四四四

見ゆれば...
昔は...
酒は...
唯...
唯...
唯...

此を...
...
...
...
...

新...
...
...
...

桂...
...

西園...
...

か...
...

...

...

...



西園...
...



十一歳
清水孝書

吞舟之魚
不游枝
流

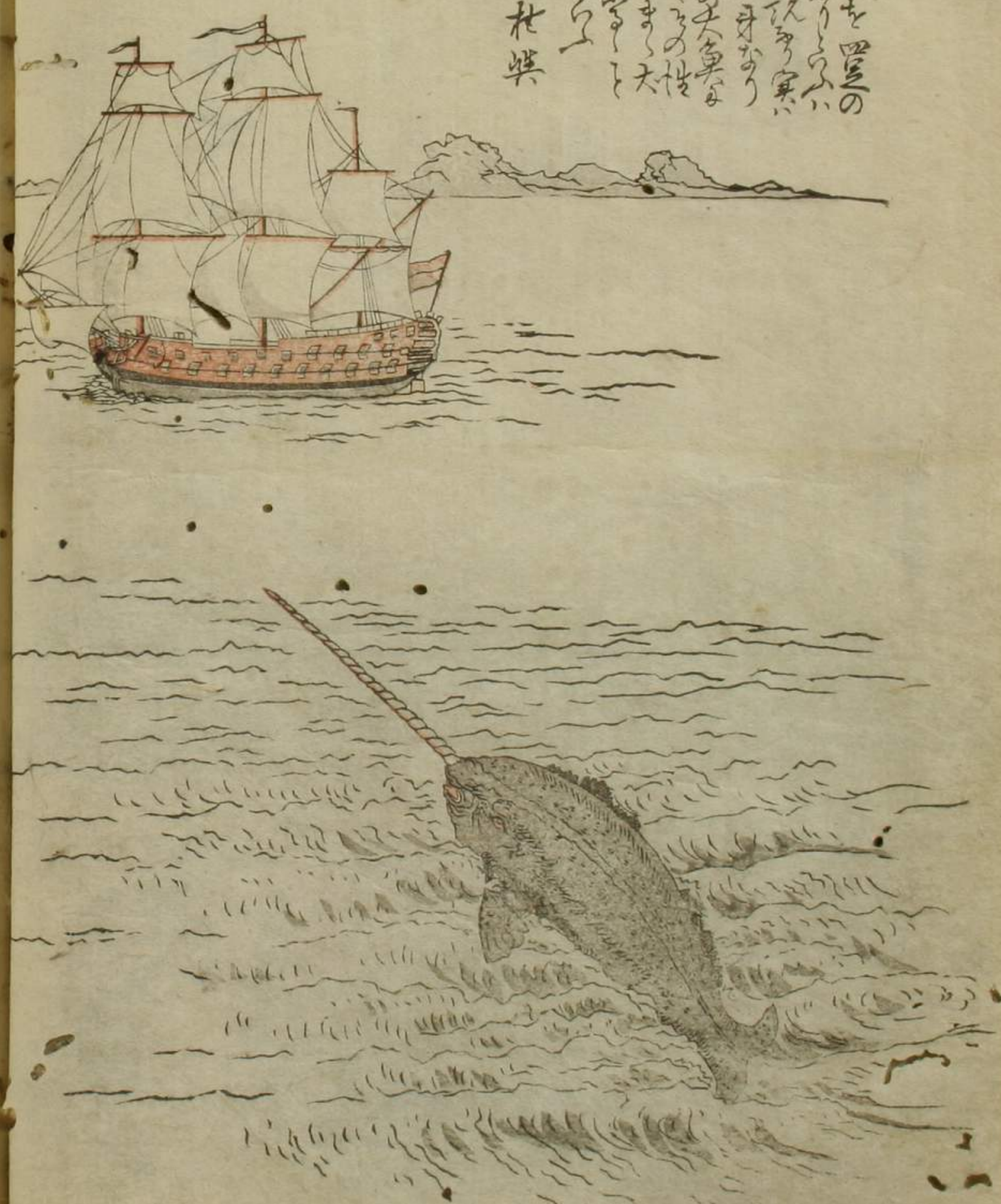


一里席
國芳筆

市ひくくがりのみや
つうくろ手撰作真久
御代乃り古は
意需影之并若
津庵不白



一角を置の
 角ありとふい
 古の記多実
 魚は牙なり
 山の天鳥も
 たりまの性
 形もまの天
 あらまの
 杜撰



魚鑑自序

吾幼ニシテ大西ノ醫學ニ從事シ。又嘗テ
 赭鞭ノ學ニ從フ。切齧鑽研此二年アリ。夫
 赭鞭ハ醫家ノ必待ツ所ニシテ。其學タルマタ
 博シ水陸ヲ問ス。洪纖ヲ論セス。飛潜動植
 隱括遺ス。一ナク。一物ゴトニ其産處ヲ審
 ニシ。其形状ヲ辨ジ。性情功用マタ皆彙究
 肥羅剔抉其至當ヲ求メント欲セハ。豈ソレ

博クシテ且難キ者ニアラズヤ。好一不敏イマタ
其堂奥ニ詣ルヲ得スト雖氏粗其門戸ヲ
窺フヲ得タリ嘗テ意フ。

本邦海國魚蝦頗繁シ之ヲ彙テ以テ一部
通俗ノ書ヲ撰ント欲スル久シ。風塵ニ
奔走シテ因循未果サス近來居ヲ長濱街
ニ移ス街ハ日本橋東ニ在リ蓋シ其地魚肆
星列鱖鱒鮓鯉ノ屬軀體鱗鱗ノ類家々ニ

満チ戸々ニ溢ル殊形異状ノモノマタ間コレ
アリ。昕夕目覩スル所頗ル襟懷ヲ富ス深ク
聞クノ似テ見ノ真ナルヲ歎ス是ニ於テ
紙ヲ伸ベ筆ヲ弄シ閑窗ノ前孤燈ノ下固陋
ヲ量ズ積歳ノ蘊思ヲ發揮シ以テ此一篇ノ
冊子ヲ撰ブ。凡ソ水ニ属スル者洪纖並ビ
舉ゲ奇常共ニ陳ス詳ニ河海ノ産ヲ辯ジ
曲ニ綱罟ノ候ヲ徴ス若夫功用ハ固ヨリ論

ナレ物々分明種々哲析記スルニ國字ヲ以テスルモノハ人ノ曉り易キニ取ル掲グルニ
華名ヲ以テスルモノハ俗ノ雅稱ニ暗キニ
便ス市井ノ徒村野ノ輩マタ得テ讀ム
ベシ固ヨリ之ヲ有識ニ示ニ非ス夫魚鰕
ノ物タル食膳ノ必需ツ所若シ其性ヲ識
ズレテ徒ニ饕餮ヲ恣ニセハ幾何カ身
ヲ害シ生ヲ傷ラザラン人々一本ヲ置テ

檢査ニ供セハ又衛生ノ一端ナラスヤ此
予ガ一片ノ老婆心或ハ小ク世ニ補ヒアラ
ント云フ夫物類至繁物用至備至繁ヲ觀
テ以テ造物主ノ全能ヲ歎ジ至備ヲ觀テ
以テ造物主ノ至仁ニ服ス故ニヨク其性
ヲ盡シ其理ヲ格ムルトキハ庶クハ造物主
ノ恩造ニ負カズシテ其化育ヲ奉スルニ
タル若シ然ラズシテ之ヲ茫然知ザルニ

付セハ。豈ニソレ物ノ靈ナランヤ。嗚呼人
 天地ノ間ニ生レ物ヲ以テ自ラ奉シ其
 由ル所ヲ知ラザルベケンヤ。

天保二年歲次辛卯夏五月

江都 標涯武好一撰并書



魚がゞ頁卷之上

東都 標涯武井周作 著

いの部

いな 和名抄にいふあより幾内よてくちめ伊勢子
 めりぎちとのふ漢名鯔魚本草綱目よ出川なるハ
 即各吉の字音あり古名名のよきた因すや紀貫之
 の記ハこのありらめあされをより乃からひくきと
 りくもこのうをりなりいつらとてり赤鱗とナリ
 めるハわらハ田を雁了用のよのふて何れの地よと
 幸くこのゆへはやをけれハ代へ用ひしやいふ

物生をお伺ことひ微く育多を忍ふなど
り。 圖書南産志及南寧府志に撰尾と云ふ二歳の
ものをいふ所の三歳をばしりとのふ南志にハ
鯽魚と名づく。四歳以上をばらと云ふ即鯽魚あり
十歳以上を、ヤコと云ふと云ふ其物め浅床に生ず
夏秋の百連行て群をばひ多き時を、一網に千万
をとつてかぞふ東都佃洋にあり其處なるありはも
泥真をくく甚よ。只いふのくにあふ諸魚神奈
川沖よりくかこ小生るもの所謂江戸前と稱て
賞美せぬものぞなき昔ハを忍どいやむこ。

き多ありと戯る尾花うけらまげぬのくを前月
入る山も忍く海も君のめみあそあはさあまハ常盤
堅船ふよさく入ます花の大江都とはありし四海の
称をくふ鐘く諸侯の厨あも海族をむくくしめ
賤民とて小鮮ハかかずゆり鮮魚の肆ハ巨萬
堆もも遂ハ一尾の宿を越るる鮑魚の肆ハ吞舟
の魚よ。 依比魚まてやうすふと云。 輸もこのを
りども食もの夥しきよハあらずちをせぬ者よ開よ
とりども先もつものハ飯あられハ炊ぬ家とても
あられハ電の烟ひまらるる立の向空をも蔽へり溝血を

腸凡下血痛の痛
いし上を痛
脾熱をさる食
をすめれり

米汁もち汁じゆ色いろ如ごと叔しやくハ州しゆハ入り川がわ水みづろれうろろろ甘あまく海うみハ
潮うしほも亦また甘あまく水みづハ火ひをけりしものを漂うかすの用もちハ萬ばん水すい
共ともおちく潮うしほハ船ふねを運つト塩しほを出いすの利り四よ海うみハ
之これのくとも活い動まその小こ於おてや因よトからむこの江え戸こ前まへ
と称なるものハ東ひがし方かた生な育まの陽やう氣きを受うく生なト五ご穀こく
滋じ味みの餘あま甘あまを食くて長なが川がわ故ゆハ味あじ他た國くに比ひもの勝まさ
まり且かつ此この魚いさな陰いん陽やうの氣き化くわして生なす故ゆハ數かず千せんひ
きくろよその腹はら中ちゆうハひくろも鮮あるしものゆへ
果は魚いさなとりハあひハ福ふくの堂どうくされてあるとりハあま
稻い魚いさな乃な是こ我がなるべし古いにしへハ魚いさなの字なをなと訓なり

冷物也

氣味きみ甘あま平へい毒どくなり 主治しゆじ胃いをひらき五ご臟ざうを利りす
りて肥こ健けんなりしむ或あるハ妊にん婦ふ多く食くハ血ちを動うるしと
いせごひ 幾いく内うちもて呼よぶ関かん東とうよめちご西さい國こくハ紫むら口くち
又また朱しゆ口くち又またちめとりハ函は志しよりハ赤せき目め鳥とり其その状じやう鰯いわしと
一般いぱんもて口くち眼がん赤せきく大おほなるもの三尺さんせき余あま背せ何なにらりも
青あおく味あじ極きよくて甘あま美み生なまも煮なるもよりハ且かつ此この魚いさな化くわ生なす
何なにハ卵たまご生なますして何なにらり中ちゆう異いなり糖とうを和わし塩しほも
藁わらもて巻またつたを筒つつ込こめ志し列れつ鳥とり羽うの名な産う産さん
なり年としをとる味あじハ變かはり冬ふゆに到いたれど黄わう赤せき色いろ
みりて透と明めいなり薄うすく切きて酒さけあらひハ酢すも食くど

酒煤の最第一なり。必又煮るべからず。氣味甘平毒あり

主治 熱痢 消渴を治す。百病を忌むことあり

からせり。俗に鰯の字を用ゆ。即この魚の鱓なり

肥前より出るもの。黄赤色なり。透明なり。味は甘美

衣上品なり。志列土列のもの。こぼしは。備列讚州

より出る。その皆鱓の鱓なり。紫黑色。味は辣法なり

劣れり。之を貯る。糖藏をとり。とよ。又青海苔

小包し置も。産後腹痛。細う。切て。味噌汁を

煮食すと。たちど。ら。よ。ま。あり

いこし 楊梅大納言の漢語抄。鰯の字を用ゆ

いこし 此魚性弱。脆弱あり

故に名づく。俗におは。そ。又。お。む。ら。と。も。い。漢名鰯魚

関書より。處々海濱多し。と。い。く。と。東。武。の。内。海。に。産

所謂江都前より。味は美く。他列の産に勝れり。九魚の

大利を得ること。と。ち。ら。の。右。に。出。る。もの。こ。ぼ。し。に。は。ん。と

多し。今食するもの。漬り。得る。所。の。干。が。一。に。も。三。つ。ず

乾鰯と。な。し。す。油。を。絞。り。國。に。在。る。到。ら。ざ。る。處

を。此。の。古。より。こ。ぼ。し。を。賞。美。す。延。喜。式。神。祇。式。に

鰯汁あり。主計式に。乾鰯。鰯。鮓。あり。て。皆。紀。伊。若。按。冊。後

備中備後安藝周防讚岐等の國より。これ。出。る。今

備中備後安藝周防讚岐等の國より。これ。出。る。今

腎を補ひ目を
明らめし中風
によし血をうる
存し氣力を奪

狹市民常食の佐となす事少くは四時より有
とハハヤ水ききて秋をよしとハ色あらけあひひ身は
黒点あるハ味ひよくハ青く黒色あるをよしとハ一
うるめいりりと稱するものあり眼の眶赤く志て清らす
脂も少くハ味淡く佳くハ又ハ石をありその口
けとがれり味よくすその塩藏之ハきを経て食ふハ
堪ざるもの赤鯛と稱して今節分の夜於葉と云ふハ
門上壁間よりハ邪鬼を避るといふことや千門萬戸
流例と云ふも何れの處より移るといふ事あるす
氣味甘鹹温毒あり 主治陰をうるハ陽を壯し

臟腑を補ひ経絡を通ず凍腫よこの頭を黒焼み
胡麻油よりとき傳れむより又産後の腹痛にも温酒
にて扱いてより多く食へど胸もたへ痰を吐き
あひひ瘡毒より小兒の虫積を動さむ
ハハハハハ 和名抄ハ鯨の字を用少漢名石首魚本
州綱目よりハ四州ともになれあり處ハ海中に産す
状ふなる歟して長按色淡白なり鱗長く鱗細
りに頭小くハ尾ハ岐たぐ肉脆く脂少くハ味
より其頭中ハ二石ありゆへに名流ハ此石諸魚とも
これあり蓋骨の石質をあるすなり 福州志是を

毒をこらし瘡を
いとし瘡を補ひ
いんをつまじしな
めある腹を治し
小便を通し氣力
を益す

黄梅魚といふ。その黄梅の節に至りて盛んあるを
いふあり。一種大あるものを。に屬する。氣味甘平
毒あり。或いは冷なり。主治 胃をひらき食を消し
氣を益し中を調ふ。又眼色を老る。脂あり。洗ひ
きりて食べ。此頭石を粉りて服す。小便急閉を治す。
いろか獸 南部筑前よりゆかといふ。臨海異物志小
鯨鮪といふ。漢名海豚。綱目より出。狀豚に似。鱗れ之の
如く。岐有て硬し。背より鬣ありて。鱗なく。青黒色。
頭上に潮をぶく穴二つあり。大六七尺。渾り。肌を
煎し油をとる。民間の日用とあり。大利を得ること。

少くも四時ともにあり。冬月七つとも多く。味は
他時より勝れり。氣味 鹹微甘毒あり。主治 瘡を治す。に
肺となりて。喰ふ。又味噌汁か。煮。食む。脱肛を治す。
冬月葱白とあか。煮。食む。寒を凌ぐ。
いに屬する。條を對考す。小毒あり。病者ハ
食べらる。又肝より大毒あり。食べらる。す。
いたち。を。漢名をれ。色。黝に似たる。故に名づく。
狀扁く。身圓く。一。六。け。細。光りあり。て。尾。岐
ち。味。ひ。たら。似。臭。気。あり。病者。忌む。一。
い。さ。き。奥。品。木。く。せい。ごと。漢名。詳。あり。す。

夏秋尤多。一状せいこよ似々色灰黒。亦福を帯ひ
脇上に一條の黄線あり。脂多く味もろし。又この骨
咽ふたつ時をぬけごと。 **氣味** 甘平毒なり。
いとくを 漢名未詳。肉至て少く味亦佳からず。
但莫餅とあるもの。越後高田の鱒魚川多く此魚を
産るが故。川の名とす。やうし。

いーぶー 京大坂よていーぶーち伏見よて川おこせ越前
よかかくぶ片又契うをといふ。漢名杜父魚。綱目よ出つ
源氏物語玉鬘の巻小近き川のいーぶーなどす。
の道通一玉ひてといふとも。又夫木集仲正の歌よ

たれがさて、けいのめみせてくらふ屋敷。瀬子沈つるさけ
の糸をとよめり。形をきくよ似て小なり。髪積まら硬
髪著あり。頭大きく尾細く。腹白く背に斑紋あり。て
蒼く黒く大サ三四寸。好て灰石の面に潜る。冬月
露雨るときは、糸を翻し。腹を仰て浮く。流る。漢人
其村を、突てこれを國に得るなり。故り。
かくぶ片や。腹をあらふる。陣るあはれとく
匂もあまのや **氣味** 甘平毒なり。 **主治** 小便を利す。
水腫を消す。

いさ 又あらす。さの回り。ちりのんざと。漢名

鱈魚乾て挺とちまを、鱈毛、鱈とら共編目しつづ
氣味甘平小毒あり病者食ふことあられ

いかなご 状ひこかきし、糞よよい、小く脂多し

三四月の頃られ、このものあて、い、まど、醬油を、作る

い同せ 一名うばせ、漢名これ、頭かく、身圓く、たなぶ、ふち

小似て、同上、尖り、背子、連りて、疣のどく、故に名づく

鱈あく、白色より、雲、紙乃如く、ま、斑紋あり、肉

厚く、味ひ美、焼も煮もよし、生玉あり、氣味甘、温

毒あり、多食くと、患積を、動り、又、鯨、は、毒あり

いたらぐひ 一名板屋ぐひ、一名拍子ぐひ、薩、筋、中、多く

産、清、倍、半、邊、蚌、と、子、其、柱、ま、け、で、美、し、その、殻

一、片、ハ、平、々、や、り、中、に、漢、賈、華、談、と、の、名、を、い、つ、り

今、世、上、用、ゆ、る、と、と、ろ、の、貝、拍、子、あ、る、もの、は、殻、を、と、り、

作、る、ま、く、ハ、薩、筋、より、出、る、こ、の、あ、り

い、か 和、名、抄、よ、お、川、漢、名、烏、賊、魚、網、目、に、い、や、圍、志、子

烏、鯛、よ、作、り、此、ま、の、種、類、頗、る、繁、し、江、海、考、よ、これ、を

捕、る、春、よ、り、夏、子、至、る、ま、ま、を、多、し、と、い、ま、い、か、と

稱、る、もの、尤、上、品、あ、る、冬、も、ま、ま、と、あ、り、大、あ、る、もの、を

あ、ま、り、い、か、と、い、ふ、紀、州、子、五、三、尺、あ、る、もの、有、ふ、因、書、の

花、枝、これ、あり、細、い、の、もの、を、戸、ハ、い、ろ、よ、ふ、泉、州、府、志、の

鎖管これあり又赤い耳いり瘡いりありとも子
漢名不審又栗魚あり即ちそのめいりあり其形いか
すりあり長く色紫よ内骨薄く骨硝子帝の
ど凡乾なるを函志に羽府といふ又蝦蟇子つる
即ちそのめあり本朝式文麴の字を用ゆ延喜の神祇民部
主計等の式に若狭丹後隱岐豊後あり鳥賊を莫
事といふもの皆あるめあり今肥前五島出するものを最上
やうなり又伊豆の國より出するものも美味あり丹後
俚馬伊豫よりあるものことよ次ぐ古より賀祝の
饗膳用ゆ今も亦あり又ひいりありこれ離鳥賊あり
二ノ八

即いりの子ありて黑白二種あり黒きものは常のいりの子
白きものはあをりいかの子ありその味は美 **氣味甘**
酸毒あり **主治** 志を強し婦人月経を通し小兒雀目を治
いりのこころ漢名海鰈 綱目よ出川より塩を淡くす
主治 瘡癩小腹痛一切眼病婦人血症を治す外傷よま
して搽てよし傳身よ、鹿茸香を許を炙り竹管にてふま
いれ炒ありやけどよ、長芋とすり合せ傳べし、はるめを
ふぐみあせりたるよ、煎じ用ひ又焼て喰はせてよし、ふぐ
を制伏ものこれよ、故よふぐの振舞よ、必
向よはるめ鱧と茄子の塩漬を用ふとよ、
いろは

いとすうは脾胃
を補ひ先力を
ほし血をうす
ほし五臓の病
虫積を治す諸
病に益あり

いあご いあご いあみ いあみ いそめ いそめ いさより いさより
いさな いさな いり いり いたやく いたやく いたら いたら いたら いたら いたら いたら
いさな いさな いり いり いたやく いたやく いたら いたら いたら いたら いたら いたら

はの部

はえ 俗よふはや四聲字苑に鮫の字をもちや
漢語抄に鱗の字を用や綱目の黄鯛魚これなり
近江湖中伏見倉下総印藩派多く産出形より
よ似て色白く鱗こまかき鱗赭色なり又やあきけや
けり即綱目の鯨魚あり状はやよりかく狭く

膀胱の水をたす

頭尾仰昂一柳葉一似たり瀝水子多く生る又
もろこあひかきなど稱するもの皆この類あり
氣味 甘温毒あり 主治 脾胃を健り心腎を
調ふ多く食して易

はげ 雲茹よりごぼとつ小漢名詳あらず倍の
の字ありひの鱈の字を用や江河共産東都
芝浦及中川に産するの上品あり三年をたすもの
味ふやよその肉潔白味ひ美しとつやザラ腫去
氣味 甘温毒あり 主治 中を和し脾胃を調へ氣を
益し老人虚人食て妨ふ多く食て瘡癩を瘥す

はた 一石ありありを古く常陸水戸に産す

今、出羽秋田に多し。この魚性雷聲を好めり。又、

酉陽雜俎にこれを雷魚と云ふ。主治 氣を益し、中を和く

はたト云 漢名詳ふらば、種類多し。まはたを以て

上と云。鱗こまろく、鱗あかく、尾は岐あく、紫黑色

色白きものハ劣り。状もうをよ似や扁く、首短

く、鱗も細く脆し、肉白く旨し、凡はこゝろ、もつを

あやなめ、免むるあり、その五種味ひ相似しと

いへども、はたはこゝろ、もつを以て勝り、す。あやを

これよ次、又ありはたは、もつもろこもる有る、その

上ノ十

種類あり。氣味 甘平毒あり。主治 脾胃を調へ

血を益し、食をまゝめ、泄瀉を止む。

はも 和名抄よ、ふはむ、倍は鱧の字を和名、漢名

海鰻、細目よ、出川、揚泉、紀播、海中多し、産す、状

うぶぎし、似や、灰色腹白く、嘴長く、尖り、齒尖く、肉

中、岐骨多し、大あり、もの四五尺、東都近海もあは、是

何れ、味淡甘し、美し、魚餅、不送く、最上とす、其骨切

と稱し、その、将曹油よ、焼とせ、こゝろ、あざの蒲焼より

と上品なり、京撰に於てハ、實小、殺中の珍とす、その

標ハ、膠とあは、腐し、又ふり、て肉、薄きものを

は

脾胃を補ひ高
にし顔のはれ
にふしよし精
をまし力をまし
食をすめし痔
によし妊娠い
す

ごんぎりとふぎへ割ずに全めて煮焼して食
やと思ゆるごんぎりハ五寸切ありふけを長さ五寸
切り前後互に拍て歌の節をらすまのをこんぎりと
といふ其調理の形いれは似るもあつふや氣味
寒甘毒あり主治諸凡を祛り通身の浮腫を
ひ大小便を通ず一切の濕症より

はまぐり 和名抄よ出川兼名苑下蚌蛤とす漢名
文蛤綱目不出川震ふまりわり勢別米名を
名産とす紀州和歌浦江都品川これ次ぐ北海
よ稀あり氣味甘鹹冷主母あり或は雜祭を限て

瘡癩又は痔に
よし眼を明し
温熱を去る
多から血塊に
但冷物にて要
多食正れば氣
をのほし瘡癩
し凡を生ず

八月十五夜までの間食ふべし其中子を孕して
毒あり主治肺を潤し胃をひき腎を益ふ
渴を止え酒を醒す又殼黒色からけうひと稱す
もの燒灰り末とあ佛掌薯と和しやけぎに塗り言ふ
はか 漢名未詳殼身蚌に似て淡白色肉ハありハ
小似て淡赤あり味甘美その柱を赤く小脂指の大粒
りて味肉は勝れりこれを貝の柱とよぶ京都最
多氣味甘微温毒あり主治氣をすく人をく
食ハ積を動し嘔気を吐す
はい 漢名未詳海産りて春夏の際より殼

はまちは身を肥し
し瘰癧を調へ
氣力をまし
補ふ但瘡を
し虫をこしん
をうごかす
すべからず

たうに似て色黒く状圓く長し旋文あり肉上黒く
中白し皮は帯をいり多量者食はるとさき堅脆し
て甘美 **氣味** 甘鹹寒毒あり **主治** 胸中の鬱氣を
散し大小便を利す多く食へば瀉し易し

はまち 又はうまうちともいふ はわいじち うらりのうら はくを さき
はつ まがらう はくくご ナリ はぶぐひ さう

にの部

に 登 辨色立成は鮫の字を用ゆ即いしちのた

眠粘り宜し今弓匠用ゆるとくら是なり **鰈**の字漢

語抄よはなると訓と今に登とす諸魚より鰈あり
いしども此魚より魚膠とにべといふま

にしん 松前 いし 名かざし 高瀬いし

越前よみぐさといふ車医宝鑑の音魚是あり細目の

青魚ハ別あり俗に鱧の字を用ゆ状いふに似て大

七八寸あり尺に到る眼大くして采のわたちし似て鱧

落易し其いろ蒼碧く肉しちく脂多し紅を帯ふ味

いしに似てより **糟藏**も亦あり **奥羽** 蝦夷の海多く出

近未下総 銚子浦 大和根の川口あり是をば **背肉**

此は乾したるもの多し味少し淡氣あり昆布巻に造るは極よし。氣味 甘平毒あり。主治 中を温え氣力を益す。その子即かぼこのころうられ亦乾して昔く四方小運送を。歳旦婚礼の祝具よ。必缺べし。そのあり。子孫繁榮の義よ。れはあり。新あるもの黄白色をよとす。陳あるもの紅紫黒よ。変あるをよとす。又近未志田くびのころり。上品あり。又穀胞を合せて形正方は作りたるをよせおむのこと。京都より出でにきさうを。西國よりてとらうとす。呼ぶはトといふものも亦一物あり。そのいろ五彩ありて。教色あり。

上ノ三

肺をうらほし痰去る

にー にごうー あごうー からうー 備後一巻に夜あきむらうふは。種菜少ふからむ。四時あり。和名抄に小辛螺とつ川にごうー 漢名 蓼螺 綱目よ出所一名辣螺 寧波府志よ出川状さごういよ似て圓長く尖角あり。鱗を甲者す。ものをへたさうりよ。お即かにるり。氣味 甘平毒あり。砂糖及蜜を思む。眼痛。心痛。疝癪を以て。虫を殺す。腸の氣味 辛辣毒あり。主治 寸白虫一切の虫に。一より。穀ハ焼灰して服用せられむ。上部の積熱を祛ふ。又まみかきとありて。齒を固ふ。又あり。漢名 紅螺 綱目よ出所

眼を明れし湯を
と脱肛に
全脈を果焼に
しを飲めば淋病
の妙なり

状じやうに似て微び異あり肉腸にくちやう殼かきの氣味きみ 主治しゆぢ 共とも
ハ唾つよりてすり附つ遠行とんぎやうして足あし踏ふの腫はれるハ飯いひの湯ゆ
らてとき塗ぬまめの出で来きるふいそくいでて貼はりてす
にな 和名わな抄しやうよふとふ 崔氏さいし食經じききやうハ河が貝い子しと列れをを俗ぞくハ河が子し河が子し
蟻あひの字じを用もちゆ作渡さどハびままびん 俗ぞくハ河が子し河が子し
ごうふ和方書わはうしよハ卷虫まきむしといへり漢名かんのな蝸か蠃ら綱か目めハ出川いづか
河海池澤がかいちさくとも生なり形かたち小く長ながさ一寸いっすんたれどかかハ
だより厚あつく薄うすき層かあり黒色くろしきなり肉にく蝸牛かたむしの
どし鄙人びんじんこれを食くふ海涯うみぎハ産うるを海うみにかとふ
上ノ十四

形色しきしやう河産がさんに異ことあらむ性しやう至いたて死し難がた誤あやりて泥壁中ぬいへきちゆうに
塗ぬり入いるととき久ひさきを任まかして死しせむゆへいつまで貝
ともふ氣味きみ甘寒かんげん毒どくあり 主治しゆぢ黃疸わうたん水腫すいしゆうを治ちハ二便にべん
を利り熱ねつを解げ酒しゆを醒さ産後さんご血暈けつえんを治ちまて
味噌汁みそうじゆりて煮食にじきへど兒枕痛こしづらを治ちす
にごひ 小の條せうのじやうよ ぶぐうるか 小の條せうのじやうよ
はの部
はくほう 作渡さどよきうを西國せいこくよことひき又またはあ
のうをとふ俗ぞくハ魴鮒はうぶの字じを利り漢名かんのな未詳みじやうその状じやう
かぶらに似にて少すこく黒色くろしきあり髪かみ春長はるながくして

身とひや—表白く—淡赤—裏深緑—羽半碧
 圓点あり翅下は刺あり肉雪白味甘美—冬魚の
 上選るあり—寧波府志の地凌魚と云詳あり
氣味 甘平毒あり **主治** 肺氣を潤を—中を潤ふ
 ほや 漢語抄は老海鼠の字を用也漢名未詳奥加仙傳
 にはほやく笑ふとつ子に因く自郎吉事の時必食ふあり
 近以相海も稀はあつ甲虫に似て甲虫はあらず蛤菜は
 似て蛤菜はあらず只水牛皮の生たううとく **吐土硬**
 して瘡痕あり口目を肉の形色あぐひの肉は似た
 生たううとの繪とあり—味美—又肺とあふものハ
 上、十五

虫瘻によし腎
 を補ひ五疳を
 治す酒毒を去
 まし氣を散し
 のをとりぬ

之は革のどろく色あり—乾く—味淡薄あり **氣味**
 甘温毒あり **主治** 氣を益—血を調—自汗盗汗をとく
 ほたてがひ 俗はあぶぎがひと云清俗海扇と云
 陸奥蝦夷海中に産すその肉未だ身なり **氣味** **主治**
 詳あり—劉績が霏雪録の海扇ハ即車渠あり
 ほらのうひ 法螺の字を用也漢名梭尾螺南海異
 物志にも殼は紫黑黄の虎斑あり大なるハ舶来
 あり斯方瀕海にもまれは大有る物を産す小ありと
 常にあり肉食ふなり 本邦軍中これをもつて
 進退をち 天皇よられを用て樂器の一とす今
 はハ

五臟を補ひう
さいのつねれを
たふし脚氣
を治し脚氣
を治し脚氣
を治し脚氣
を治し脚氣
を治し脚氣
を治し脚氣
を治し脚氣
を治し脚氣
を治し脚氣

脾胃を調へ食
をすふめんを
つよくしなめしほ
り腹又出ししほ
らうさいの虫
をとり腹外れ
命を延ぶ百病の
くすうき

酒醉をささし
溺瀉を治し未
の粘と煮あは
せ痔を治す

道士あれは伊豆の人子時々山崩れ或は谷湧き
草木一肘は震は此法螺山を脱多海よ入の徴あり
駿河原驛の側柵沢村とづくに法螺の脱窟あり俗に
八文石と呼ぶ**氣味**甘平毒あり**主治**身を軽し羊を延ぶ
ぼらう いふの條よき ぼらうづ あかりこき

への部
その部

とびうを 和名抄よとびを九筋よあごとく漢名
文魁魚綱目よ出川三四月かつをよ先立てあつ五六月
絶てなり状をぢりりは似て兩翅長く海上よ群飛び
上ノ十六

とびうは行と香東のぬ **氣味**甘平毒あり **主治**なんざん
小ハ黒焼をとまう酒を服き又妊婦常に食ふて
よー又ひれのくらややを乳のまこりよ傳て妙あり
どきよう 俗に黧の字を用也漢名泥鰌綱目よ出づ
泥中に生ずるもの肥大あり **斑文**陰濶あり沙中
小生ずるもの瘦小あり **斑文**分明あり 雁の羽
柵葉志まよとまよの名あり **氣味**甘温毒あり 是を
煮つに燈心草一握を入れ煮つときハその骨極て柔
あり **主治**中を暖め氣を益し血を潤へ専ら腎精をす
とくひき 或はとくひきとくふ状かふがくら小似て

扁くその鱗長く廣く背腹はほらある常座右に
掛るときは福祿をばらばら食ふべし毒あり

とりがひ 漢名詳くありん状あざむひは似て白色殼

上は細縦文理あり裏淡紅色あり漆を沽よこの殼

小盛りて入る燕ふ肉鳥喙の如く長さ二三寸白色子

しく瑞は淡紫を帯ふ古く東海稀すて近來甚多し

しとゆる合浦の珠のひ徳は化せしものあらん時き

食へハ味尤美し 氣味甘鹹平毒あり 氣味小水を利用

とどろめ どもろめ どもろめ どもろめ どもろめ

どうがめ どもろめ どもろめ どもろめ どもろめ

ちの部

ちぬたい ちうはん ちうぶ ちうめんざと ちとうがひ ちぐみ

りの部 めの部 くの部

をの部

をこぜ 漢名詳かありて種類頗る多しうむをこぜ

みーまをこぜ かへつをこぜあり 皆一類あり其肉

雪白ありて味美 氣味甘温毒あり 主治氣を益す

をぼこ おほそ おむら おさつだい おくせいご

をささあり ちりぬるをわ

わの部

わうきぎ

駿河

まための魚常陸さくら魚伯耆

あらさぎ出雲又あまさぎとつふ漢名あれどくち

はやふ似て大サニオトキギ河海の石に産出春月多く

これを捕ふ味ひ美し腥気強し白乾するま常陸

の名産あり多く食へば海帯

わたがこれ琵琶湖中に産出といふ未だ親見せば

綱目の黄鯛魚ふとんり

わうきぎ わらさ わに

かの部

か

漢語抄に鯉魚の字を用ゆ俗に鯉の字を用ゆ

延喜式に堅魚の字を用ゆ俗に松魚の字を用ゆハ

非あり中山傳信録に任獲魚といふ即かほを任

假音あり今清高鯛魚といふ四月相刃鎌倉海上始て

これを出せ實に夏月の上珍これにさるハ故東都

の諸人上下となくその魁を競ふ別て六七月のころ

相豆房総の海上これに釣るは急き小船よ

帆茂まきて順風激浪のつらちなり夜中はまあると

おかしきと稱へて好事の酒客千金をもふけら

と云あり古くハ毒ありとて上饌ハ供せざしを

近き頃、やんごとあきあきり、此庖厨は七端くららうらやあ、炭の節、句とそ

砥石も、わらうま、あちさん、福かつを、なをいへるよそ

あ、こ、法、あ、と、つ、と、土、作、阿、波、紀、伊、伊、勢、の、衣

た、ご、し、き、よ、ハ、及、び、ん、駿、豆、相、房、終、陸、こ、れ、は、次、ぐ、

北、海、道、へ、見、る、と、あ、一、は、魚、季、春、東、よ、り、游、行、し、て

西、は、向、ふ、よ、つ、て、東、國、の、身、紀、伊、土、作、の、お、そ、一、外、貌

相、同、く、し、て、肉、粘、る、を、餅、か、法、を、と、つ、ひ、背、は、黒、白、線

三、四、條、あ、る、を、筋、が、此、を、と、ふ、又、そ、う、ご、が、川、を、

あ、ら、う、か、法、を、い、つ、つ、わ、の、こ、わ、あ、ら、う、あ、ら、う、皆、一、季、別、種

あり、劣、れ、や、氣、味、甘、く、不、毒、あり、胡、椒、と、因、ド、く、食、べ、う、と、

大、に、害、あ、り、た、ら、の、外、は、容、易、に、用、べ、う、び、只、加、川、を

の、も、よ、あ、ら、う、法、魚、に、用、て、あ、ら、う、主、治、中、を、温、め、腸、胃

を、調、へ、久、痢、久、浮、を、を、む、る、食、を、へ、く、と、又、生、の、か、法、を

の、頭、へ、人、参、を、入、せ、黒、焼、し、と、よ、ハ、勞、症、の、妙、菜、也

か、法、を、ぶ、一、堅、魚、を、四、つ、よ、り、肉、條、と、切、沸、湯、よ、て、よ、く

煮、あ、ら、う、皮、半、過、を、は、さ、首、の、邊、よ、り、肋、骨、を、ぬ、き、火、を、け

よ、く、あ、ら、う、幾、日、も、日、よ、さ、い、し、乾、枯、し、て、上、皮、を、削、り、去、り、

貯、ぶ、暑、中、の、製、作、を、上、品、と、す、その、少、一、火、を、け、水、を、を

去、り、た、を、あ、ら、う、と、し、鮮、肉、よ、及、び、さ、れ、と、も、皆、此、法、を、遵、じ

清高これを身臭或木魚と云不邦日田の西...
貴人より農工商はつる生で一日もこの品を...
べつと五味を調和し膏腴乃美を護し津...
塩梅の主品あり。延喜式は堅魚腊と云ものこれあり。
魚汁あり。これ今土州より出る者取の委あらん。
賞を辱し皆公候貴人の味と云ものあり。その他志摩
相模安房紀伊土佐高豊後駿河等の國に腊
を貢ぐとあり。今土州これを出ると多し天下



腎を補ひ五臟
氣力精液をま
し身を潤しめ
くし髪鬚を長
くす

の甲品たり。紀伊熊野...
伊豆相模等も亦多し。...
臟内淡紅あり。その新...
外乾枯し。内微赤あり。ものを蓄しと云。
かまゆ 漢名校魚函書は出川俗に鮪の字を用ゆ。
細鱗光色帶尖り鋒のどく首尾校尖身圓肥長し。
大あしもの五六寸味美し。只炙食ふより。處へは出さず。
鱈とあすもの亦愛せしべし。氣味微温し。て毒あり。
主治 氣血を調く肌を潤し。皮膚癢濕あり。人ハ
多く食ふべし。俗に卑を云。若この干物に若菜

諸病に害なし
氣震脾胃に
脚過食すれば

浴湯をれむ能く寒熱をとりふとくを

かれひ 和名抄よ出川朱厘記よ王餘魚の字を用ゆ倍よ

鱧の字を用ゆ漢名比目魚綱目よ出川種類亦多し

腥がれひ石がれひむしがれひめりぐれひしぐれひ

まごれひたごれひものを倍よのしぐれひとふからず

かまふあひ下品あり又常陸麻島の産もうぐれひ

といふなり物て霜月のころ鮓をさぐる小雌川真子を

さりー上一雄さるて白子をさるくむさるを

くまよざるものは魚よとて又いーれひハ西岸

藻ぐれひを東岸の鮓をさるといへり 氣味甘平毒あり

上りニ上

主治 虚を補ひ氣丸を益す多食をれど氣を動か

俗よれひの骨體がむらうらふこれをさるる

かさご 俗よあへんめんとうふ状もこうをよ似て

以圓く大く嘴尖り鱗あつく味下劣なり赤黒兩種又

鬼筆子の莢けり 氣味甘平りて毒あり 主治 あつと

のむる等と同ふりて味ひ浅く諸病よ妨りなり

かぐさい 漢名 鮓魚綱目よ出川状まふ川をよ似て

金銀二色ありまんと稱するもの黄色をお味美し

ざんと稱するもの雲母紙のごと味何れ谷の腹背

正中よ一圓の煙暈斑点けり故よ拍たいたし毒あり

諸病によし
腎不腹虫積痛
疾五臓によし

かながーら 寧波府志に父魚と云ふ状は

と一般よりて只色微しく薄きものなり **氣味** 微甘毒あり

かろう 漢名杜父魚 綱目より出川状なるに似て細小

腹下黄白背青黒よりて黄色を帯ぶよく群遊して

声をたす歌人これを詠とて山川閑寂の賞とあす

とくども全く別物あり杜父は飛を飲膳の用にあづか

れむろくを贅せず **氣味** 甘平毒あり **主治** 小水を利用し

水腫を消し其を殺し熱淋を治す

かき 和名抄より出川なるに形ち湖とるがごとく故に名づく

漢名牡蠣 綱目より出川なるに種類多く渚州より産す俗より

上ノ二五

撫子ぬる 螺の殻よりなる歌書よりなるりきと称す

その是を海中石土より生ず形圓よりて短く殻厚く芒刺

ありその肉味は美なり殻枯れて風波より晒さるるもの色

微紅瞿麦花の如し綱目より雲蠣と云ふ俗よりろびひと云

上総木更津より生じたは海の浅渚より生ず木石より固

らざして孤生す状圓扁よりて角ありいたたらがひ

のどより角さざいより似て短く味鄙し西志よりこれを

草鞋蛎と云ふ又俗よりいそがき 洋よりきあれよりびと

の一種なるものあり 綱目より石牡蛎と云ふあれ又

孤生す東洋中多しその殻菜より用也海中より

肉は虚損又は
 中を補ひ生姜
 酢にて酒の餅
 をまじり煮て
 は顔をうすほし
 肌をわはらぐ
 を焼たるは血を
 とめよつてつを
 散し傷寒のそ

がらさむき
 ちらちたが
 あせ胸のいさ
 れひふのあは
 癆うい肺病
 喘息胸ののた
 みんよし腎精
 益ましを地を
 とめきんの汗た
 たれをいぬし
 小児驚かぬん
 めん或はそら
 たちををを
 つめ百病に用
 うべし但中満
 不食ひいむ

年を徑つ、殼中もの皮うら白粉を生む。綱丹は海牡
 蛎といふ俗に内海かき寧波府志に梅花蛎といふ安藝
 廣島播磨紀伊和泉三河尾張武藏等の海蛎田の
 種。此常の食料あり。下総鉦子のこもの大ありといふも
 味よくす。それを江都海小一月わど活あけは美味を
 生ず。江都海自然生するもの状小なりといふも
 その味極て美し。その水の肥く多うぐゆさうまう
 大船のしきに附きまぬるを品川より取るとあり。
 さうらびも遠海の産を居あうぐ小食するも都會の
 幸あり。俗に志中老くぐき状丁の字のごとく。紀伊

海軍よ産す。氣味甘温毒あり。主治 養食ふ中を調へ
 よう血汗をよむ。生すて食へ。雨後の渴をとむ。
 からぬぐひ 武藏の言葉あり。倍よどぶぐひ。又真珠女
 一名繪るむ。越後よ田ぐひ。近江よた田ぐひ。作渡よ片
 ぐひといふ漢名。蚌綱目よ出川。これ溝渠江海中皆
 産す。状蛤に似て。殼薄く圓長あり。外面黒く横紋
 あり。殼内音白ひりりありて。うらうら大あり。その八九す。
 その肉蛤に似て。微く黄色味甘く。臭気あり。珠ハ
 肉中よあり。其殼粉とあをて。蚌粉蛤粉或は蟹粉といふ
 かに 萬葉集よ出川漢名。蟹綱目よ出川。程類

甚多し俗にカギミ此蟻蜂あり。赤・緑に倍は豆た
蟹の細小なるもの此蟻蜂あり。倍はとらぐに田港
に生れ。豆ぐに似て大此蟻蜂なり。倍はをぐに
此蟻あり。倍はをぐに一名瓜一ち一名うれぐに
洲渚沙磧の處に生れ。蟹白く殼青し此沙物あり。
俗より一回お移り海濱に生れ。潮のまきハ兩螯
をおげ望む此蟻潮あり。俗は赤がに一名いーかに
此石蟹なり。俗は餅ぐに此百足蟹なる。倍はかに
むぐり此蟹奴あり。倍は例ぐに此毛蟹なり。蟻蜂
以下と細く倍はとらぐに此蟹江あり

一名千人倍は一家ぐに一名清経ぐに此鬼面蟹あり。
共は蟹譜よも倍は大きに此れ虎蟬あり。倍は
わぐりぐに此れ蟻あり。共は聞志よも倍はとらぐ
ぐに一螯ハ大く一螯ハ小く此れ擁劍あり。その衣
小なるもの清高歩荷とよぶ此他漢名詳あり。さ
その枚るは追おむる九蟹月夜ハ肉少く。闇夜ハ
充満す時最美し。氣味鹹甘冷毒あり。柿と同く
食ふ。毒もや荊芥に似る。主治よく酒毒を解し筋骨
を續く。生きて搗き漆瘡おあひ疥癬は余ちる。
かぶとぐに 蛭前よりんきり長崎まで朝鮮かに

と子漢名鱈魚綱目よ出川殼圓扁より青黒色眼
 背上よりあり口腹下よりあり尾の長サ四五尺氣味辛鹹平
 小毒あり主治痔を治し虫を殺す殼ハ年ひささ
 咳を治し

かくな和名抄よつこも子倍よにもり又やど

かり琉球よあんまくとつ漢名寄居虫綱目

小出川此虫空螺殼中よ寄生虫状るびよ似て

蝨あり淡水河海皆産大サ寸に足サ琉球海

産大サ尺よ盈日塩より食ハ顔の艶を出さ

かめ和名抄よつ川又いにかめともつ子漢名水亀

上ノ二十五

綱目よカウモク川カウモク氣味カウモク主治カウモクともにするるんよ似たを

かいづたの部よかぶつ かまおこぜ共よかまおんの部よ

かうらりりわーかどかつの子共よおんの部よ

かみありうをはの部よかいのほらはの部よ

からすいせごひの條よかまらふかまににあよ

からぐささうよかぶとぐひかうま共ようた

かすすりぐひこやまぐひかまかめすつろんの部よ

かの子は湯を
 したすけをうご
 かし虫瘻を瘻の
 類に心し瘻の
 かりすを瘻者
 に用ひれども
 瘻瘻瘻瘻物に
 膿を生じ血を
 うごめす

子帽烏鯮



柯江



子帽烏鯮... (The text is written in vertical columns, likely a transcription or commentary on the fish depicted above. It is written in a cursive or semi-cursive script.)

